

考えてみましょう 高齢者虐待のこと

年齢を重ねても住み慣れた場所で、自分らしく尊厳を持って暮らしていきたいと誰もが願っています。

しかし、そのあたりまえの暮らしが「虐待」によって妨げられていたらどうでしょうか？

高齢者が住み慣れた場所で、安心してあたりまえの生活を継続するためには、家族や周囲の人々が高齢者に関する正しい知識を持ち、高齢者を地域全体で支えていくことが、安心した暮らしを実現させるための第一歩となります。

人権週間
12月4日
～10日

こんな行動・発言 …実は虐待です

- おもらしをしないよう水分を控えさせる。
- 通帳などを管理し、本人に無断で使う。
- 病気の可能性があるのに故意的に病院につれていかない。
- 意図的に無視や嫌がらせをするなど、精神的な苦痛を与える。
- 言うことを聞かないので、怒鳴ったり、ののしったりする。

認知症の知識がなく、 虐待につながってしまう

介護する側に認知症の正しい知識がないことで高齢者の虐待につながってしまう場合があります。気になる症状が見られたら、かかりつけ医や専門医に相談しましょう。

4人に3人が無自覚に 虐待をしています

高齢者は約4割が虐待されていると感じていますが、虐待している人の約8割が無自覚だということが分かっています。

介護をする家族の負担

介護を一生懸命頑張っている家族は、責任感や介護疲れでストレスがたまってきます。その負担から虐待が始まることも少なくありません。一人で介護を抱え込まないことや、周りの人が介護者の負担に気づき、言葉をかけて手を差し伸べる必要があります。

地域の気づき・見守り・助け合い

誰もがいずれは歳をとります。虐待は他人事ではなく、誰にでも起こり得る身近な問題です。

介護する人、される人を孤立させないよう、地域での気づき・見守り・助け合いが大切です。

「話を聞いてあげる」「日常のあいさつ」「いたわりの言葉やねぎらいの言葉」など、あたたかく関わることで誰もが暮らしやすい地域をめざしましょう。

相談窓口

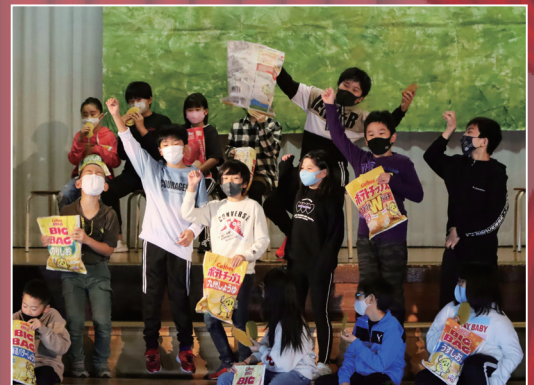
地域包括支援センター
(市役所1階)
☎32-0661

市内各小学校 学習発表会

茂尻小学校



赤間小学校



豊里小学校

